

令和5年度 さくらんぼ(雨よけ) 病虫害防除暦

ながのブロック

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍 率	散布量 (10a当り)	対象病虫害 *太字は重点 病虫害	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項
1 発芽前 月 日	—	水 スプレーオイル	98 ℓ 2 ℓ	 50 倍	 300 ℓ	カイガラムシ類 (ハダニ類) (胴 枯 病)	発芽前	—	○温暖無風の日を選び丁寧に散布する。 ○胴枯病の枝は切り取り焼却する。部分的な患部は削り取り、トップジンMペーストを塗布する。 ○カイガラムシの多い園ではアプロードフロアブル1,000倍(100mℓ・7日前まで)を加用散布する。
2 開花始め 月 日	7 28	水 展着剤(マイリノー) フルーツセイバー サムコルフロアブル10	100 ℓ 5 mℓ 66 mℓ 40 mℓ	 1,500 倍 2,500 倍	 400 ℓ	灰 星 病 幼果菌核病 ハマキムシ類 ケ ム シ 類	前日まで 前日まで	3 回以内 3 回以内	○ホウ素欠乏の発生が心配される場合はエイトビー1,000倍(100mℓ)の特別散布を実施する。(ミソ玉)
5月中旬にコスカシバ対策として、スカシバコンL(10a当り100本)を設置する。									
3 5月中旬 月 日	11+7	水 ナリアWDG	100 ℓ 50 g	 2,000 倍	 500 ℓ	灰 星 病 褐色せん孔病 炭 疽 病 幼果菌核病	前日まで	3 回以内	○果面の汚れを減らすため、展着剤は使用しない。 ○灰星病の重要な防除なので、丁寧に散布する。 ○摘芯、摘果等の作業を適期に行う。 ○カメムシの発生が心配される場合は、ダントツ水溶剤2,000倍(50g・前日まで)を加用散布する。

4 収穫前 月 日		水	100 ℓ			500 ℓ	灰星病 オウトウショウジョウバエ カメムシ類	前日まで	3回以内	○果面の汚れを減らすため、展着剤は使用しない。 ○品質向上のため、友果500倍(200g)を加用散布する。		
	3	オンリーワンフロアブル	50 mℓ	2,000 倍							前日まで	3回以内
	4	アルバリン顆粒水溶剤	50 g	2,000 倍				前日まで	2回以内			
5 6月中旬 (紅秀峰 収穫前) 月 日	3	水 Ⓢ スカウトフロアブル	100 ℓ 33 mℓ		3,000 倍	500 ℓ	ショウジョウバエ類	前日まで	2回以内			
6 7月中旬 (収穫後) 月 日	25	水 展着剤(マイリノー)	100 ℓ 5 mℓ			500 ℓ	褐色せん孔病 ハダニ類 ケムシ類	前日まで	1回以内	※収穫後すみやかに散布する。		
	M1	ダニコングフロアブル	50 mℓ	2,000 倍							収穫後	3回以内
	1	キンセツ水和剤80 Ⓢ ダイアジノン水和剤34	100 g 100 g	1,000 倍 1,000 倍							14日前まで	2回以内
7 8月上旬 月 日	3	水 展着剤(マイリノー)	100 ℓ 5 mℓ			500 ℓ	褐色せん孔病 (コスカシバ) (ケムシ類) (アメリカシロヒトリ) オウトウショウジョウバエ	前日まで	3回以内	○ダニの発生が見られる園ではコロマイト乳剤1,000倍(100mℓ・7日前まで)を加用散布する。		
	M1	アーデントフロアブル キンセツ水和剤80	55 mℓ 100 g	2,000 倍 1,000 倍							収穫後	3回以内

特 散	M1	水 展着剤(マイリノー) キンセット水和剤80	100 ℓ 5 mℓ 100 g	1,000 倍	500 ℓ	褐色せん孔病	収穫後	3 回以内	○褐色せん孔病の発生が多い園では、前回散布から3週間以内に散布する。
9 9月上中旬 月 日	1	水 展着剤(マイリノー) スミチオン乳剤	100 ℓ 5 mℓ 100 mℓ	1,000 倍	500 ℓ	ハマキムシ類 (ケムシ類) (コスカシバ)	14日前まで	2 回以内	○コスカシバの発生が多い場合は10月以降にトラサイドA乳剤200倍(500mℓ)を主幹・枝を中心に散布する。